

学生と企業 将来語る 長崎商議所青年部が「未来ラボ」

県内の学生と地元企業が仕事や将来について語り合うイベント「未来ラボ@Nagasaki」が7日、長崎市内であった。中高生と大学生計約30人がグループトークを通して、社会参画した将来について考えを深めた。

地域を活性化し、若者に進路選択のヒントを得てもらおうと、長崎商工会議所青年部が初開催。サービス、建設業など約20の企業と学生が参加した。

参加者は5、6人ずつのグループに分かれて意見を交わした。「大人になってしたいこと」というテーマでは高校生が「最近、将来について考えないといけな



仕事や将来について語り合う参加者たち
＝長崎市元船町、平安閣サンプリエール

いと思っている」と発言。大学生は「就職につながらなくても新しい経験を蓄えようとしている」と語り、企業側も「いろいろな経験を人に話せると面白い」とアドバイスした。

「仕事のイメージ」については、企業側が学生に「働く中で、仕事は多くの人に関わって成り立っているのだと分かった。自分にしかできないこと、人の役に立つことを見つけてほしい」とエールを送った。

こころ咲良高1年の武次紗英さん(16)は「夢を後押ししてくれ、個性を生かす大切さなどを学んだ」、同市の花屋「花の山口」の吉田賢代表(46)は「元気と希望をもらえた。若者が戻ってこられる場所を長崎に残したい」と話した。(村瀬晴香)